

〔論文〕

現代タイ社会における呪物市場と女性参入の影響 —クマーン・トーンとルーク・テープ—

関 泰子

— 目 次 —

1. はじめに
2. クマーン・トーンと産女伝承
3. 「福の神」クマーン・トーンの誕生
4. メディアへの登場と「福の神」イメージへの変化
5. 「ルーク・テープ」：21世紀の「クマーン・トーン」？
6. ^{まじないもの}呪物市場のグローバリズムと女性の参入が及ぼす影響
7. 結論

キーワード：タイ、仏教、ジェンダー、呪術

1. はじめに

タイの仏教はミャンマー同様、テーラヴァーダ仏教に属する。仏教教義と民衆の仏教理解／宗教実践の乖離は、すでに多くの研究者が指摘しているところであるが、同様に両国における民衆の宗教実践も異なる点が多く存在する。

タイ・ミャンマー両国の仏教はそれぞれ土着の精霊信仰と深く結びついている。筆者は長年に渡り、両国における人々の宗教実践を調査してきたが、それらの土

着信仰は、仏教と深く結びついているだけではなく、現代においても重要な機能を果たしている。例えば船を守る精霊「船霊」は、双方の国の船乗り・漁民によって篤く信仰されているが、船霊儀礼が中心になるタイに対し、ミャンマー漁民においては、それは上位のナツ（精霊）や土地神、仏教と結び付けられ、船を守る体系に組み込まれている。仏教優位の下、ナツ神たちは仏教的な価値観や規範に従う存在とみなされている（関 2017b）。

他方、タイに際立つ民間信仰の特徴がある。それは日常的に売買される無数の「呪物（まじないもの）／お守り」の存在であろう。これらのお守りには様々な種類があり、野津幸治によると、その内容は、コーンクラン（聖なるもの。護符）、クルアンラーン（呪物）、プラクルアン（小仏像）、クルアンブルックセーク（聖化儀礼を経たもの）ワーンヤー（葉草）等に分類されるが、一括してクルアンラーンと呼ぶ場合も多く、1980年代以降、人々の願望が「護身」から「吉祥」に変化し、その頃から「ワットゥモンコン（吉祥をもたらすもの）」が使われるようになった（野津 2019:14）。都市、農村を問わずタイ国内を歩き回ると、これらクルアンラーン／ワットゥモンコンと呼ばれるお守りを首からぶら下げた人々に出会う（画像1）。車のバックミラーに吊り下げることもある。寺院境内や街角でお守りを売る物売りも多く、各呪物のご利益や価格を説明した雑誌も販売され、テレビや雑誌でとりあげられることも珍しくない。これらワットゥモンコンの多くは仏像や高僧を彫り込んだものであるが、デーヴァナーガリー文字やヤン／ヤントラと呼ばれる仏教のシンボルを彫ったもの、マラと呼ばれる数珠、女神ナーン・クワック（招福のご利益があると考えられている）や、中国仏教の影響を受けた観音やシヴァ、パールヴァティ、ガネーシャといったヒンドゥーの神々が彫り込まれたものもある。ペンダントトップとしてチェーンにつけて首からぶら下げられる形状のものもあれば、小像として家に置くタイプ、あるいはカバンや財布に入れられるサイズの石や粘土製のものなど様々である。寺院で扱われるこうしたお守りには、例えば白墨、線香の灰、貝殻、香油、燃やした椰子の葉、蓮の種や花粉、その他の葉草等が練り込まれる（Stoker 2013:16）。人々は、寺院境内の売店や、道端に広げられたお守り屋の屋台で、気楽にお守りを買って求める。タイの民衆の生活にはこうした呪物クルアンラーンの需要が日常化している。



画像1：首からたくさんのお守りをぶら下げたタイの男性

本論で取り上げる「クマーン・トーン」もこうした呪物の一つである。クマーン・トーンとは、元々、タイの古典文学『クンチャーン、クン・ペーン』に登場する伝統的な使い魔であり、呪術によって作られた存在である。出産時に死亡した妊婦の腹から取り出した胎児に様々な魔術的な手法を駆使し、この世の蘇らせたのがクマーン・トーンである。長らくの間、タイ人にとってクマーン・トーンとはそうした文学の中に登場するおどろおどろしい使い魔として記憶されていた。そして、この使い魔を20世紀における「福の神」として再度蘇らせたのが、仏教僧たちなのである。

この悪霊・化物の類であるクマーン・トーンが、呪物クルアンランとして広く認知されるようになった背景をまとめると以下の3点になろう。(1) 死んで生まれた胎児の霊性を認める文化的背景、(2) 仏教（僧）／呪術師との父子関係的な結びつき、(3) メディアによる情報の拡散とスピリチュアル・マーケティングである。

以下、この3点について考察し、クマーン・トーン信仰を、2015年から2016年にかけてタイで大きな社会現象となった「ルーク・テープ」騒動と比較し、タイの民間信仰におけるグローバリズムと市場への女性利用者の参入が及ぼす影響について考えたい。

2. クマーン・トーンと産女伝承

タイ文化において超自然的な存在は「ピーー」と総称される。このピーーという存在には「守護霊、祖霊、精霊、幽霊、魔神、妖怪、天使」等々タイ人を取り囲む諸々の超自然的な存在が含まれている。タイの著名な民俗学者プラヤー・アヌマーンラーチャトン¹は、ピーーには大きく分けて善霊と悪霊の二つに分かれるとする（アヌマーンラーチャトン 1987：247）。常に善なる霊が「テワダー」である。しかし、時に「天使」「神」と訳されることもあるテワダーであるが、人間がその意にそぐわぬ行動をすればたちまちその怒りに触れ、災厄をもたらす悪霊となる。逆に、悪霊の中には、人間がうまく祀り上げることができたら、人間の頼もしい味方になる存在もある。つまり、便宜的に善霊／悪霊と分けられているが、実際にそのピーーが人間に善／害をもたらすかどうかについては、人間の行い次第ということになるのである。

タイ人は、数あるピーーの中でも善悪両面を併せ持つピーーをとりわけ信仰する傾向がある。機嫌を損ねると恐ろしい存在となるが、機嫌を取り、お礼参りを欠かさなければ、人間に福をもたらすと考えられているからだ。例えば、タイの漁民・船乗り・運転手の間で信仰されている船霊「メー・ヤー・ナーン」は、船の材料となる硬木「タキアン木」の精霊ナーン・タキアン（タキアン夫人）が、船になってそのまま船霊となったという説がある（関 2014:146-148）。ナーン・タキアンの宿るタキアン木は、財運のご利益があるといわれ、宝くじ当選を願う人々が集うことで知られている。ナーン・タキアンは女の精霊であるため、宝くじに当選した人は、御礼としてチュット・タイ（タイ女性が着る伝統的な衣装）を納める。タイの地方を旅すると、幹に何本もの布が巻かれ（神木の象徴）、その幹や枝にチュット・タイが幾つもぶら下がっているのに遭遇することがある（画像2）。それは住民によって神木と認定されたタキアン木である。こうして人間に儲けさせてくれるタキアン木の精霊であるが、挨拶もせずに勝手に木を切り倒す不心得者には徹底的に祟ると言われている。こうしたタキアン木信仰をめぐる伝承は、タイのピーーが善悪の二元論では説明できないことを明確に示している。

こうした善悪両義性をはらむピーーの一つに、出産時に死亡した妊婦の悪霊が

ある。産褥死や事故死のように自然死ではない死に方はタイではターイ・ホンと呼ばれ、死者が現世に未練を残すがゆえに生者に災厄をもたらすと信じられてきた。特に、出産に失敗し胎児と共に死亡（ターイ・タンクロムと呼ばれる）した妊婦の霊のこの世への未練は強いと信じられ、そのため直ちに火葬されることはなく、胎児を取り出した上で別々に土葬し数年の供養を経て改めて荼毘に付される。



画像2：神木を表す布が巻かれ、女性用衣装（チュット・タイ）が吊り下げられたタキアン木

タイにおける産褥死女性の悪霊化とそれに対する人々の恐怖は、日本の「産女（うぶめ）」伝承を想起させる。産女とは、「産褥死した女性の変化で、夜の道や川辺で赤子を抱くように強要するもの」とされる。（小松他 2013:63）。また、胎児を分娩せずに死ぬと産女になるため、赤子を取り出し身2つにして埋葬する、という習俗は日本の各地に見られる（小松他 2013:64）。

タイにおける産褥死妊婦の埋葬も、こうした日本の習俗によく似ている。しかし、埋葬や供養の仕方は似ているものの、根底にある妊婦の死に対する考え方はかなり異なるようである。安井眞奈美は日本の産褥死した女性を成仏しない霊とみなす考え方の根拠は、妊婦の死を重い罪とみなし、血の池に堕ちるとする意識にあり、このような考え方の民間流布の背後には、室町時代に成立した『血盆経』の影響が大きいとする（安井 2013:25）。『血盆経』は仏教の教えではなく、「血の穢れ」を重視する日本文化の上に成り立った偽経である。一方、タイにおけるそれは、妊婦の罪や業と見なすゆえではなく、そもそもタイ族には死体への恐怖、

特に変死体を極端に恐れる傾向があるからであるという（綾部 1971:286-287）。

綾部によると、産褥死した妊婦は悪霊として恐れられると同時に、呪術の格好の材料とみなされてきた。妊婦の死体の顎からとれた油脂は強力な媚薬になると言い伝えられており、死体から飛び出そうとする靈魂を捕まえ使役する呪術が行われたりした（綾部 1971:287）。

物語化したピー・ターイ・タンクロム伝承として最も有名な事例は、「ナーン・ナーク」（あるいは「メー・ナーク」）である。「ナーン」は既婚女性を示す語、「メー」は母という意味である。「ナーク」は名前であるから、日本語に訳すと「ナーク夫人」あるいは「ナーク母さん」ということになる。「ナーク」には蛇（ナーガ）の意味もあり、ヘビの化身であるナーク夫人の暗喩となっている。

19世紀初頭のバンコク郊外プラカノーンに実在したとされる女性をめぐる伝承であり、戦争に行った夫の帰りを幽霊となって待ちわびるナークをめぐるストーリーはタイで語り継がれてきた有名な怪談である。村人をとり殺す悪霊として、あるいは夫を待ちわびる貞女の幽霊として、映画やテレビのドラマとして繰り返し映像化されてきた。

ナーン・ナークが生まれ育ったとされるプラカノーン村は、今は都心（バンコク都プラカノーン区）に位置し、同村跡に建立されたマハーブット寺院境内にナーン・ナークの社が作られ「祭神」として祀られている（画像3参照）。「ご利益」は徴兵忌避や徴兵された夫・息子の無事帰還⁽¹⁾や、宝くじの当選祈願である。社内にタキアン木の大木が生えており、前述の通りタキアン木は祈願者に財運を運ぶという俗信があるため、ナーン・ナーク信仰とタキアン木信仰が重なり、財運の神としても信仰されている。

こうしたタイ版「産女」ストーリーの中心は産褥死した女性であるが、母子ともに死亡した場合、村の呪医が母子を別々に埋葬し、胎児の悪霊化を防ぐ。死亡時に妊婦の子宮から胎児を取り出さずに一箇所に埋葬すると、死んだ胎児はピー・プラーイとなり、人々の血を飲み漁るようになるという（津村 2002:29）。一方でその胎児も呪術の対象とされてきた。クマーン・トーンがそれである。クマーン・トーンとは、元々は出産時に母と共に亡くなった（ターイ・タンクロム）胎児を掘り出し、呪術をかけ蘇らせた存在である（Janphanitkun 2009:6）。つまり、クマーン・トーンをクマーン・トーンたらしめているのは、こうした悲惨

な死を遂げた母子の物語の継承者を恐れるという文化的背景の存在である。



画像3：メー・ナーク・プラカノーンを祀る社の外側（社内は撮影禁止。祭壇の他、祈願用のタキアン木がある）。ナークの肖像画や人形が多数奉納されている。

3. 「福の神」クマーン・トーンの誕生

「クマーン・トーン」は、タイ社会ではおなじみの「福の神」人形である。クマーンとは「童子（男の子）」を表し、トーンは「黄金」を表す。敢えて日本語に訳すと「黄金童子」となるうか。野津は、クマーン・トーンを「妊婦とともに死亡した胎児の霊力を利用することによって、守護や開運のご履歴を求めて、世話、養育しながら所有するお守り」と定義している（野津 2017:7）。

日本の「招き猫」のように気軽な「招福」雑貨としても人気のあるクマーン・トーンは、バンコク郊外の青空市場や市場に行けば安価で大量に売られている。しかし一方、寺院から「貸し出される」⁽²⁾クマーン・トーンは、呪物ワトゥモンコンである。クマーン・トーンは、日本の招き猫のようなお決まりのポーズやデザインはなく、クマーン・トーンを作り続けている寺院や僧侶ごとに人形の容姿が異なる。また「貸出」される前にそれぞれの寺院の僧侶によって「ヤン（護符）」の描き込みや「プルック・セーク（呪文を吹き込む）」儀礼が行われてる。クルアンラーンの製法と同じである。

「クマーン・トーン」はいつから「福の神」として祀られるようになったのだろうか。元々クマーン・トーンとは、敵を倒すためのいわば「使い魔」として、呪術によって作り出された童形のピーーであった。出産時に母と共に亡くなった（ターイ・タンクロム）胎児を埋葬地から掘り出し、儀式と呪術により使い魔と

して蘇らせる。それが故に高い霊力を持つと考えられてきた。通説では、このような呪術は14世紀アユタヤ時代から存在していた言われている（Janphanitkun 2009:6）。その根拠になっているのが前述の『クンチャーン、クン・ペーン』の中のクマーン・トーンの記述である。

『クンチャーン、クン・ペーン』物語は、アユタヤ時代、ラーマティボディー2世の治世当時（1491～1529年頃）の史実に基づいて記述されたと考えられている。しかし、本格的に編纂されたのは19世紀に入ってからである。現王朝であるチャクリー王朝のラーマ2世（在位1809～1824）が宮廷に詩人たちを集めて各章を割り当てて書かせた（野津 2017:8）。物語は、主人公の男性クン・ペーンともう一人の男性クンチャーンとの種々のやりとりで進んでいく。

この物語に登場するクマーン・トーンは、クン・ペーンが自分を殺そうとしていた妻に腹を立て、妻の腹を裂いて取り出した胎児を寺の菩薩堂に運び、呪力の力で作り出したものとして登場する（野津 2017:9）。

この頃の製造方法（古式）については野津論文（2017）に詳しいが、現在流布している方法（新式）は、「寺院内の本堂や結界を張った聖なる場所で、聖糸（サーイ・シン）を7重に巻いた建物の内部に白い布を敷き詰め、土曜日あるいは火曜日に産褥死で亡くなった妊婦の胎児を取り出し、火で炙り乾かし、最後に全体に金箔を貼りつけ、呪文を吹き込む。これを自分の最愛の息子のように慈しみ大切に祀ると、霊驗あらたかな存在となる」（Janphanithkun 2009:9-10）。時代を経て、このような方法で作ることが難しくなると、墓地の土や洞窟の土などを、土曜日から火曜日に亡くなった人の遺灰と混ぜ人形を作り呪文を吹き込むという方法がとられるようになる（Janphanithkun 2009:9-10）。あるいは、「金属、象牙に彫刻を施したお守り、石膏、レジン樹脂、7カ所の墓地の土、船着き場の土、八重咲ラックの木またはマヨムの木、菩薩道の周囲にある結果に付着した苔、土曜日に死亡し火曜日に火葬した人の遺灰」（野津 2017:12）である。誰でもが製作できるわけではなく、作り手は専ら僧侶や呪術師である。

現在、寺院等で製作されているクマーン・トーンは、このように墓地の土を使うこともあるが、金属製、漆喰製、樹脂製等々様々な素材で作られるようになっている。ただ、呪文を吹き込む（ブルック・セーク）ことは変わらない。最後に人形に心と五元素（五行説の木・火・土・金・水）を吹きかけ、子どもの霊とし

て誕生させる（野津 2017:12）。

そして最終的な仕上げとして、出来上がったばかりの土人形に向い、「息子や、ここにいるのが父親だよ。父さんはお前を息子として欲しいのだ。父さんと一緒に行こうな。父さんはお前を大事に育てるからな。」と話しかけると、人形が立ち上がり、まるで人間のように話し始めるのだという。これがクマーン・トーンである（Janphanithkun 2009:9）。

僧侶や呪術師によって作られ、呪文を吹きこまれたクマーン・トーンを譲り受けた者は、室内に安置する前に、土地神（チャオ・ティー）・屋敷地神（サーン・プラプーム）に線香をあげ、クマーン・トーンの自宅招来を報告しなければならない。安置する場所は西向きの場所や寝室の足の向く側、階段の下を避け、仏像より下の位置でなければならない。そして、クマーン・トーンに新たな名前を与える（Janphanitkun 2009:15）。

現在クマーン・トーンを作り続けている寺院において、このような墓土を使い特別な儀礼を施す呪法でクマーン・トーン作りが行われているのかについては不明である。ただ、クマーン・トーンはこうした恐れられる悪霊としての出自や、「墓場の土」や「人骨（幼児の骨）」と言ったいかにもの霊力をにおわせる特殊な素材を練りこんでいるゆえに霊験あらたかなのだ、と信じる人々が多い。そして、注目すべき点は、作り手が僧侶であったり呪術師であることもあり、そこに意識されているのが「父と子」の関係であるということである。タイ文化の中の父親による子育てのイメージがそこに反映されている。

この世に生まれ出ることなく亡くなった胎児が、呪術により蘇った使い魔クマーン・トーンは、呪術者の手中にある悪霊ピーである。このような伝承の中の悪霊が、現在のような「福の神」クルアンランとして再び登場するのは、20世紀に入ってからである。

1942年、ナコンパトム県にあるサームガーム寺の住職テー師が、新たにクマーン・トーン像を農民のための田畑の番人として作り出したのがきっかけとなり（Payakorn 2015:19、野津 2017:17）、これ以降、クマーン・トーンは商売や招福の神様へと変化していった。タンチャルパットによると、クマーン・トーンの製作法には大きく分けて2つの系譜があり、一つはナコンパトム県ターコン寺院の住職であったチェーム師の系統であり、テー師はこのチェーム師の製法を受け

継ぐ。もう一つの系譜は、シンブリー県プラプラン寺院のシー師を創始者とするものである。シー師の系譜は、シンブリー県内の寺院を中心に継承されている (Tancharuphat 2016:15)。テー師は、1942年、1954年、1957年の3回に分けてクマーン・トーンを製作している (Janphanitkun 2009:44-34、野津 2017: 17) (画像4)。次いでサームガーム寺の住職となったイエーム師はテー師よりクマーン・トーン製造に必要な知識と製法を受け継ぎ、クマーン・トーンを製作した。最初に作ったのはワットウモンコンのメダル型お守り (1973年) であった。その後、1973～1982年の間にクマーン・トーンの製作を行い、さらに1992年にもクマーン・トーンを作っている (野津 2017: 17) (画像5)。テー師やイエーム師がクマーン・トーンを製作していた頃は、クマーン・トーンの知名度は低く、寺院に寄進をしてくれた農民への返礼として配られるささやかな授与品であった。



画像4：テー師が最初に作ったクマーン・トーン
(出典：Janphanitkun (2009), p.38)

画像5：サームガーム寺院に安置されている古いタイプのクマーン・トーン像



4. メディアへの登場と「福の神」イメージへの変化

「福の神」クマーン・トーンは、今や自営業者やビジネスパーソンの間に根強く信仰されている。こうした爆発的需要を生み出したのは、メディアの影響であ

ると野津は述べる。

野津によると、きっかけは1994年に起こった事件である。中部タイ・サラブリー県内の寺院火葬場において、僧侶が本当の子供の死体からクマーン・トーンを作ろうとし、逮捕された事件である。製造過程の一部をこの僧侶がビデオ撮影しており、それがメディアに公開され、大きなニュースになった（野津 2017:18）。

その後、2002年には『クンチャーン、クン・ペーン』を原作とする映画が制作され、その中でクマーン・トーンを製作するシーンが流された。翌年には、非合法妊娠中絶クリニックにて胎児の死体がクマーン・トーン製作用に買い集められ、防腐処理を施され乾燥させた後、シンガポール、マレーシア、香港等に販売されるという事件が起こった（野津 2017:18）。このような事件や出来事により、クマーン・トーン製作を続けている人々の存在や、アジア各国の中国系の人々がクマーン・トーンに注目していることが明らかになった。

また、2009年に起こったバンコクのナイトクラブ火災では多数の死傷者が出たが、奇跡的に助かったDJの男性が、メディアのインタビューに対し、長年信仰しているクマーン・トーンのおかげと述べたことも話題になった（野津 2018:75）。

「福の神」クマーン・トーンのイメージが決定的になったのは、2009年にテレビで元歌手の兄弟が企業家として成功した原因としてクマーン・トーン信仰をとりあげて以降のことである（野津 2017: 19）。この兄弟は、サムガーム寺の教師とイエーム師が製作したクマーン・トーンを中心に1,000体以上のクマーン・トーンを所有していると語り、ここから「福の神」クマーン・トーンのイメージが定着したと考えられる。

以来、クマーン・トーンの霊験に関する書物が多数出版され、インターネットにもクマーン・トーンの由来とご利益を宣伝するサイトが乱立し、クマーン・トーンのブームが巻き起こった。クマーン・トーンを欲しがる参拝者の需要に応えるべく、タイ各地の寺院でクマーン・トーン像が作られるようになったが、その中心の一つがバンコク都に隣接する前述のナコンパトム県である。ナコンパトム県は、バンコク都心から車で2時間ほど西に進んだところにある小さな県であり、首都に通勤する人々が住むバンコク都首都圏（パリモントン）の内部に位置している。

ここにはクマーン・トーン製作で有名な寺院が数か所あり、その中で最も有名

な寺が前述のサームガーム寺院である。テー師が青年僧であった頃人々の寺院への喜捨の御札に、墓の土を使って人形を作ったのが始まりだ⁽³⁾という。サームガーム寺院のクマーン・トーンの製法は秘法として代々の住職に継承され外部には知られていない (Jangpanitkun 2009:13)。

同県内にあるパイローム寺院で作られるクマーン・トーンも有名である。2015年、103才で亡くなったパイローム寺院の先代住職が60年程前にクマーン・トーン作りを始め、その後パイローム寺院はクマーン・トーンの寺として有名になり、現在では色々なサイズ、様々なポーズのクマーン・トーンを製造し「貸借」している (画像6)。クマーン・トーンの製法は寺によって異なり、パイローム寺で作られているクマーン・トーンは、元々「クマーン・ソンバット」という一つの存在から、分霊している。そのため、パイローム寺院で買い求めたクマーン・トーンは、購入者自らが名付けることはできず、どれもクマーン・ソンバットという名前と呼ばれる。寺の売店担当者によると、先代住職がクマーン・トーン作りを始めたきっかけは、寺院に参拝に来る自営業者の人々が、住職手作りのクマーン・トーンを身近に置くことにより仏教の教えを思い出し、日々勤勉に過ごすことを願ったからだという。また、この寺院は古くなったクマーン・トーンの捨て場所、供養場所としても有名である (画像7)。クマーン・トーン信仰の俗信では、持ち主の言うことを聞かない悪い子の (つまり幸運をもたらさない) クマーン・トーンは廃棄すべきではなく寺に持ってくる。この寺に納められている不要になったクマーン・トーンは他の場所や寺院で買い求められたものであり、そのうち2割ほどは壊れてしまったクマーン・トーン、残り8割は「悪い子になった」 (ご利益が全く感じられない、家に良くないことが起こる等) ため、この寺に持ってこられたものである⁽⁴⁾という。

これらの画像から分かるように、現在製作されているクマーン・トーン像の外見は様々で、伝統的な衣装と髪型、裸形の上半身で瞑想する姿の童子像として作られる他、着衣姿や、立像、あるいは招き猫のように「おいでおいで」ポーズを取ることもある。製造者により形やポーズ、価格も異なる。しかし、クマーン・トーン像の外見は、いかにもの禍々しい呪術の産物という外見ではもはやなく福々しい童形の姿で作られるようになっていく。



画像6：パイローム寺院で作られた最古のクマーン・トーン

画像7：パイローム寺院本堂内に設置された廃棄されたクマーン・トーンの供養塔。クマーン・トーンのために購入した玩具もここに持ってこられる。



1940年代にナコンパトム県の僧侶等によってクルアンラーンとして作られ始めたクマーン・トーンであるが、今のように全国的知名度を持つ福の神と化したのは21世紀になってからである。知名度向上へのメディア貢献は少なくない。昔からクマーン・トーンが存在を知っていた人々にとっては馴染みの深い神であるが、若い世代にとってはメディアに頻繁に露出する流行りのワットゥモンコンの一つであったろう。

一方、クマーン・トーンはバンコクに住む高学歴中間層にとって「庶民が宝くじ当選祈願をするために買い込むもの」であり、「時代遅れ」で禍々しい俗信に満ちた存在とみなされているのも事実である。しかし、2016年にバンコクを中心とした都市圏で起こった「ルーク・テープ」ブームは、クマーン・トーンに無関心な若い世代を巻き込み、タイの人々が「福の神」のもたらす「福」とは何なのかについて考える大きな契機となった。

5. 「ルーク・テープ」：21世紀の「クマーン・トーン」？

2015年初頭からメディアに取り上げられるようになった「ルーク・テープ」現象は、2016年初頭にピークを迎え、タイ社会に賛否両論の大議論を引き起こし、仏教界による否定的な見解の発表がきっかけとなり、早々に沈静化した。「ルーク・テープ」は、元々は人間の子供に似せてリアルに作られた樹脂製の人形（リボン・ドール）である。要はこの人形に呪文を吹き込んだり護符（ヤン）を描くことにより、招福人形に作り変えたものが「ルーク・テープ」である(画像8)。「ルーク・テープ」とは直訳すると「天使の子供」という意味である。少し前まで殆ど知られていなかったこの人形は、ネットでの情報拡散やメディアの過熱報道により爆発的な売れ行きを見せ始め、2015年末には大きな社会現象を引き起こした。



画像8：ルークテープ人形（額の部分に護符が描かれている）

チャイウォンによると、以前からリボン・ドール人形の愛好家からなる小さなサークルは存在し、その中には人形を寺や呪術師のところに持ち込み、呪文を吹き込んでもらう人々もいたという (Chaiwong 2016:155)。この頃はまだ、高価な人形コレクターの集う小さなコミュニティであった。そのうち高名な占い師メック氏（男性）が呪文を吹き込んだ人形のネット販売を開始し、こうした人形を「ルーク・テープ」と名付けた。⁽⁵⁾ 最初売れ行きは今ひとつであったが、自身の子供を望めない人々が子ども代わりにと買い求めるようになり、こうした購買者

の、日々の生活が楽しくなった、気持ちの切り替えで目標を達成したという経験談がメディアやネットを通じて次第に一般人の間にも広がっていった（Chaiwong 2016:156）。メック氏はインターネットで販売する他、同性パートナーのキング氏と「バーン・ルークテープ（ルークテープの家）」という直営店を経営し、芸能人や著名人がその顧客となっていった。こうした話がメディアで大々的にとりあげられるにつれ、一般の人々の注目も集まるようになった。さらにルーク・テープを入手した人々の中に「呪文を吹き込んでもらった赤ちゃん人形を手に入れてから幸運が舞い込んだ」「宝くじに当たった」と言い出す者が出現し、それがまたメディアで取り上げられることによって、大ブームを引き起こした。

メック氏やイン氏といったルーク・テープを作り始めた人々だけではなく、寺に持ち込み僧侶に呪文を吹き込んでもらおうとする人々も現れた。ノンタブリー県の僧侶ウィナイ師は、僅かな喜捨をするだけで人形への呪文吹き込みを受け付けてくれるという話が広まり、ウィナイ師のもとには毎日100人を超える人々が人形を抱いて訪れるようになった。こうした現象が大きく報道されると、それに影響され、幸運をもたらす人形を手に入れた人々が爆発的に増えることになった。⁽⁶⁾「ルーク・テープ」ブームをビジネス・チャンスととらえる人々も出現し、メック氏やイン氏以外にも「ルーク・テープ」を販売する業者が出現する。

通常1500パーツ（約4500円）程度で売られているリボン・ドールは、まずルーク・テープ専用の人形店に持ち込まれ、そこで毛髪を綺麗に植え付けられ、おしゃれな服を着せられる。こうして外見を整えられてから、人形は1800～2000パーツ（約5400円～6000円）で消費者に販売される。⁽⁷⁾自分の気に入った容姿の人形を選んだ消費者は、最終段階としてそれを寺に持ち込み、呪文を吹き込んでもらうのだ。「（人形としての）徳を持ち」、「所有者に現金をもたらす」ために二種類の呪文が吹き込まれるという。また、ルーク・テープはクマーン・トーンと違い、いつも身綺麗で可愛らしい装いをさせるよう心がけていれば、特別な場所に安置し特別な供物を用意する必要もない。自由に連れて歩き、所有者が食べるものと同じものを「食べさせて」も構わない、という手軽さも人気につながった。

事物に僧侶が護符を描いたり呪文を吹き込むという行為は、タイ社会においては珍しいことではない。例えば新車を購入すれば、車を寺院に運び込み、交通安全を祈願して、僧侶に白い香粉で車内や車体にヤン（護符）を描いてもらう。僧

侶が人形にヤンを描いたりブルック・セーク（呪文吹き込み）することは、人形の形をした呪物クルアンランを作っていることに他ならない。しかし実際は、ルーク・テープのブームは世論や宗教界からの強い批判を受け、あっという間に沈静化してしまう。

「赤ん坊のように大切に可愛がればご利益がある」という短絡的思考の下、レストランや飛行機・バス内で、あたかも人間のように扱うことを要求するケースや、ブームに乗じた悪質な霊感商法ともいべきビジネスが乱立した。また前述の、バンコク近郊ノンタブリー県内の寺院の住職ウィナイ師が、ルーク・テープに気軽にブルック・セークしてくれるとメディアで紹介されたこともあり、連日人形を抱えた人々が殺到する現状にメディアが次第に批判的になっていったことも大きな要因であった。⁽⁸⁾ウィナイ師自身は、こうした人々の人形への信心を禁じることはできない、しかし仏教の信仰を持つ人々がやってきて懇願するのであれば、彼らが安心するよう慈悲の心で呪文を吹き込んでいると語り（Chaiwong 2016:156-157）、拒絶することなく受け入れ続けた。彼はまたメディアのインタビューの中で「人形にブルック・セークを求めてやってくる人の意識はまるで子育てしている親のようである。これを禁じることはできない。」とも述べている。

ルーク・テープのブームの中で、引き起こされた種々の現象や事件については以前の論文（2017a）に詳述したので、ここでは簡潔に述べたい。「自分の子供のように可愛がる」というルーク・テープの育て方を強く意識した人々が人形をどこにでも持ち込み、レストランや飛行機、バス等で人形用の座席を要求するという報道や、このブームをビジネスチャンスと考えた人々が、ルーク・テープ用の洋服販売、家庭教師、子守サービスを提供する商売を始めたというニュース、ブルック・セークすると称して高額の料金を要求する呪術師の出現等が連日大々的とりあげられ、ルーク・テープに関心を持たない国民からの非難の声が強まった。2016年2月、プラユット首相や仏教界の長老がこうしたルーク・テープフィーバーに苦言を呈し、間もなく仏教局がウィナイ師を含む全僧侶の呪文吹き込みを禁止する声明を出すことにより、この騒動は一応の決着をみた。ここで注目すべきことは、この件で呪文の吹き込みが禁止されたのはルーク・テープ人形だけで、クマーン・トーンを始めとする他の呪物は含まれない点である。前述のウィナイ師も「ルーク・テープは、クマーン・トーンとは異なる。ゆえにクマーン・トー

ンと同じように供養したり拝んだりしてはいけない。一方、ルーク・テープは自分自身に対するのと同じように普通の世話をすればよい。」と述べている（Chaiwong 2016: 157）。前述のパイローム寺院の関係者も「クマーン・トーンはルーク・テープと違う」と答えているのは、クマーン・トーンがタイ社会において既にクルアンランとして捉えられていることの証左であろう。

筆者は以前の論文で、タイ文化に根ざした物語を持ったクマーン・トーンと、物語を持たないルーク・テープとして対比的に論じた（関 2017a）。クマーン・トーンはタイ固有のピーであり神でもあるのに対し、ルーク・テープはタイ文化と関わる物語をもたない外来者であり、物品に過ぎないと述べた。人形に護符を描いてもらうべく寺に集まる人々は、新車を持ち込む人々と変わらないとも言えるからである。

しかしその後、ルーク・テープ現象を扱った当時のタイのテレビ番組を見るうちに、ブーム時の議論の中で語られなかった（あるいは語られたにもかかわらずとりあげられることがなかった）呪物に対する現代女性の意識が反映されているのではないかと気づいた。次章では、ルーク・テープ現象と女性の意識について考察する。

まじないもの 6. 呪物市場のグローバリズムと女性の参入が及ぼす影響

タイにおけるクマーン・トーンやルーク・テープのブームも、タイ文化に根付いたクルアンランを好む文化との関わりが深いが、他方で信仰の拡散にメディアやインターネットの影響が無視できないことは、前章で述べたとおりである。宗教的シンクレティズムとしてだけではなく、こうした世界的な「断片的・無国籍スピリチュアリズム」傾向の延長線上で考える必要があろう。

しかし本論では、こうした傾向を批判的な視点から扱うのではなく、「ルーク・テープ」という呪物がある種の人々、特に女性たちの需要に応じていることに注目したい。ルーク・テープのブームが起こった2015年から、政府や宗教関係者、専門家が次々にコメントを発表するほどの大きな社会現象に至った2016年初頭の間にルーク・テープを扱ったTV番組を見てみると、初期のルーク・テープの愛好者は主として若い女性やトランスジェンダーの人々であり、ルーク・テープを

求めた理由として、みな一様に、元々人形が好きだった、子供のように育てて見たかった、と語っている。ルーク・テープブームの中で繰り返し喧伝された「可愛がるとお金が儲かる」ということは、彼女達が買い求めた主な理由ではないのである。大ブームになり前述のような加熱した行動が話題になった時も、彼女たちは、自分はルーク・テープをレストランに連れて行ったりはしない、自宅で可愛がるだけだ、と答えている。さんざんメディアで取り上げられたルーク・テープであるがブーム初期における、こうした愛好者の発言が存在したにもかかわらず、メディアによる報道と拡散の中で、「子供の代わり」から「招福人形」へと「ルーク・テープ」イメージが変えられ、それにより購買層に変化が生じたのではないだろうか。もし、そうならば、初期の愛好者の意図を見直す必要があろう。

興味深いのは、初期のルーク・テープ愛好者の多くが女性／トランスジェンダー女性であるにもかかわらず、メディアや識者が、これらの現象をジェンダー的視点からとりあげた様子がうかがわれないことである。

本論文冒頭でクマーン・トーンのクルアンランとしての神性を保証する理由として、(1) 死んで生まれた胎児の霊性を認める文化的背景、(2) 仏教（僧）との結びつき、(3) メディアによる情報の拡散とスピリチュアル・マーケティング、の3点を挙げた。この点について、ルーク・テープと比較してみたい。

ルーク・テープはまず、クマーン・トーンとは異なり、ピーー・ターイ・タンクロムというタイの伝統的なピーイメー／物語とは無縁である、しかし、クマーン・トーン同様、メディアによる情報拡散がブーム誕生に果たした役割は大きい。最も異なるのは仏教（僧）との関わりであろう。ルーク・テープは誕生当初から仏教や僧侶との関係が薄く、むしろ民間の占い師や呪術師、霊媒の役割が大きい。これをビジネスチャンスと考え高額料金を要求するケースも相次ぎ、仏教と無関係な呪物がネットで売買されることに対する危険性や社会における「宗教なき呪術」の蔓延を恐れた識者や仏教界からの批判につながったと考えられる。

しかし、ここでもう一度ルーク・テープ愛好者の多くが女性であることについて考えてみたい。ブーム初期にメディアのインタビュー番組に登場した愛好者の女性は、自分の大好きな人形にブルック・セークしてもらった理由を「自分の大好きな人形に魂があれば良いと思った。」と語っている⁽¹⁰⁾。また、「バーン・ルークテープ」店内で、自分のルーク・テープを大事そうに抱えるトランスジェンダー

の男性は、ルーク・テープの「子育て」を楽しそうに語っている。⁽¹¹⁾ルーク・テープへの呪文吹き込みで有名になったウィナイ師は、メディアのインタビューに対し「（ルーク・テープを持参し呪文の吹き込みを依頼する人々の行動は）まるで本物の育児のようであり、これを禁じることはできない。」と繰り返し語っている。

室内に安置する像ではなく、西洋人形の形をしていること、人形の世話をする＝女兒の遊びというイメージが加わり、ルーク・テープ愛好者に対し、「大人が人形遊びをしている」と批判的な意見があったのは間違いない。人形に花火を抱かせたり、火をつけたりして、笑わせようとする男性ユーチューバーの動画は、ルーク・テープ愛好者の人形に対する思いを子供っぽい人形遊び、人形を拝めば金が儲かると信じる無知な連中と揶揄する意味合いがある。⁽¹²⁾しかしこうした愛好者の人々の中には、クマーン・トーンのような招福お守りとしてではなく、「命を吹き込まれた」人形ルーク・テープで子育てをする、こと自体が目的（＝福）である人々がいたことに注目すべきであろう。

タイ社会は世界でも有数の共働き社会である。しかし、近年の高学歴志向はホワイト・カラー的職種の競争を激化させ、都市化や近代家族化は、親族や子守依存の子育てを困難にさせている（橋本（関）2005）。その結果、タイ女性のライフコースは出産・育児が仕事の継続かを選択肢を迫られることは珍しくなくなっている。女性が一生のうちに出産する子どもの数は激減し、子供たちは幼少の頃から塾や習い事に通わせ、大学卒はおろか、できれば博士号を取得するような高学歴者に育てたい、という親たちの希望は年々苛烈化している。

世界保健機構（WHO）によると2015年時点での、タイにおける死産率（出生1,000件あたりの死産件数）は5.0であり、2.1の日本同様、低い水準となっている。⁽¹³⁾また、出生1,000人あたりの新生児死亡率は8（2018年）であり、日本の2に比べれば高いが、やはり世界的にみると低い水準となっている上、1950年には125を超えていたことを考えると、この70年ほどで劇的に減少していることが分かる。⁽¹⁴⁾出生率は1.5（2017）と低く、⁽¹⁵⁾同年の日本の1.4とあまり変わらない。他方、高齢化率は12と上昇しており（日本は28）、⁽¹⁶⁾少子高齢化が進む社会であることは間違いがない。子供が死ななくなる一方で子供の数は減り、着々と高齢化が進むタイ社会において、クルアンラーンに「子供を持つこと」自体を願う人々が出現するのは不自然なことではない。ルーク・テープはこうした「子供を育てたい」とい

う女性たちやトランスジェンダーの人々の願望を叶える呪物として誕生したと考えることもできる。

メディアによる過剰な報道により、買えばすぐに金持ちになる人形と見なされ、従来の招福呪物のイメージを抱いた多くの人々が殺到したため、悪質な靈感商法的なビジネスも乱立することになったが、元々は、こうした「子育て」を願った人々が中心であったことは軽視してはいけないであろう。クマーン・トーンの「世話」は、願望を叶えるための「手段」であるが、ルーク・テープの場合は、「世話＝育児」自体が目的なのである。吉祥をもたらすクルアンランに慣れ親しんだ人々が、ルーク・テープも同様に世話をすることで何かの恩恵を受けるはず、と考えるのは自然なことである。しかし、ルーク・テープ愛好者が考える「恩恵」というのは、クマーン・トーンや他の呪物と異なり、親子関係の中で子供が親に孝行するという行為に過ぎない。インタビュー番組の中で、インタビュアーが「どんな恩恵があるのか」と尋ねるのに対し、愛好者は「宝くじに当たる」「急にお金が入ってきた」と答えるが、「それ自体が目的ではない」と主張するのは、この点にある。

前節で述べた通り、3年前の「ルーク・テープ」騒動の中で、逆にタイ文化におけるクマーン・トーンの正統性が明らかになった。しかし、この時期にクマーン・トーンの外見も変化している。ルーク・テープのように樹脂製の愛くるしい外見の人形として作られたものも出現した（画像9）。こうしたルーク・テープのような姿をしたクマーン・トーンは「クマーン・テープ」と呼ばれたり、クマーン・トーン・バーウ（可愛いクマーン・トーン）⁽¹⁷⁾と呼ばれる。独自の製法を追求し、新しいタイプのクマーン・トーンを作っているモー・タムの男性は、時代の変化や顧客の変化に伴い、クマーン・トーン像の変化は不可避だと述べる。従来、クマーン・トーンは呪術により蘇った使い魔であり、恐ろしげな形相で作られた像が多かった。かつてクマーン・トーンを求める人々の多くは自営業者であり、そのうち90%は男性であったが、現在では買い求めにくる人の殆どが20-40代の女性であるという。そして若い女性の間では、怖い容貌のクマーン・トーンではなく、可愛らしさを強調したデザインが喜ばれる。つまり、需要者の年代や性別の変化が、可愛らしいクマーン・トーンを必要としていると述べる（Phayakorn 2015:21）。筆者のナコンパトム県内寺院における聞き取り調査でも、インタビュー

に答えた僧侶はクマーン・トーンを求めてくる女性の信者が多いと述べていた。



画像9：樹脂製の新しいタイプのクマーン・トーン。ルーク・テープによく似た仕様となっており、「クマーン・テープ」「クマーン・トーン・ペーオ」などと呼ばれることもある。

前述のモー・タムの男性の発言は、今、ルーク・テープやクマーン・トーンという「福を呼び込む人形」の最大の顧客が女性客であることを示している。彼は、女性たちが可愛い容姿のクマーン・トーンを好むのは、怖い姿のクマーン・トーンを怖がり、オフィスにおくと顧客が嫌がり、ビジネスがうまくいかないからだと言明する。

野津がタイ国内のクマーン・トーン信者7名に対し実施した、詳細なケースインタビューの中に、3人の女性信者が存在する。それぞれ60代、40代、30代である。60代の女性の語りは、娘の病氣時に霊媒に言われたのがきっかけでクマーン・トーンを祀るようになった、というものである。30年ほど前の話でクマーン・トーン信仰の歴史はかなり古い。祀っているのは左手に財宝の詰まった袋を持ち、右手でおいでおいでのポーズをする古いタイプのクマーン・トーン座像である。表情は微かに微笑んでいる。彼女のクマーン・トーン信仰はどちらかという受動的であり、霊媒に言われ半信半疑で祀ってみたところ娘の病氣が治ったので、祀り続けている。次の40代の女性は、自分自身がお守りの販売業者であり、姉がサムガーム寺院で購入した30体のクマーン・トーンの世話をしている。祀っているクマーン・トーンの画像はないが、車の中に安置している1体だけは自分で購入し、それは敢えて「微笑んでいる」顔のものを選んだという。そして興味深いのは3番目、30代女性のケースである。彼女は、自分にとりつこうとする人形

の夢を見て、霊媒に相談したところ、自分のそばにいる子供霊の存在を告げられたという。その後自分で人形を買ってきて、霊媒に招魂儀礼をしてもらい、その霊を人形に入れた。今その人形を、クマーン・トーンとして室内に祀っている。そのため彼女の祀っているのは、典型的なクマーン・トーン像ではなく、ごく普通の人形である。(野津 2018:78-81)。この30代の女性は僧侶が製作したクマーン・トーンを買い求めたのではない。入手のやり方は、クマーン・トーンの製法ではなくルーク・テープの招魂方法に似ている。しかし、女性自身はルーク・テープではなく、クマーン・トーンを祀っていると考えている。

この3名の女性の信仰のきっかけであるが、40代の女性以外は、非常に受け身である。霊媒に相談し、信仰を勧められている。モー・タムのインタビューに出てくるような、ビジネス成功を求めてクマーン・トーンを求めるようなビジネスパーソンではない。そして、祀っているクマーン・トーン像も、普通の人形に呪文を吹き込んだものか、あるいは微笑んでいる明るい表情のものである。

野津の事例に見られる女性のクマーン・トーン信仰をみていくと、より本格的な呪力を求めて、製法に則って作られたクマーン・トーン像を探し求めるのではなく、気に入った像を見つけて魂を吹き込んでもらった後に世話をしたり、自身が善行で徳を積み、その徳をクマーン・トーンに送ることで、人形の徳積みを手伝ってやるという語りが見られる。これらの世話のしかたはルーク・テープ愛好者に見られる言説であり、父子関係ではなく母と子の関係を模しているように思われる。

クマーン・トーンにまつわる文献に記されるその呪法は、製作したクマーン・トーンに「私が父だよ」と呼びかけることに明らかなように、父子関係が前提となっている。呪術者は男性であり、世話をし、育てる人物も男性であることが暗黙の了解とされてきた。しかし、女性、特に若い女性の信仰者の増加は、新しいクマーン・トーンの供養・世話の方向に向かっているようだ。言い換えるならば、女性の視点からのクマーン・トーンの物語の再解釈が求められているのではないだろうか。

近代医学の未発達な時代とはいえ、妊婦が出産に失敗し母子共に亡くなるという悲劇は、現代の女性にとっても他人事ではない。この世に生まれ出ることのなかった胎児のピーであるクマーン・トーンは同時に、彼を無事出産することが

かなわず力尽きた母親の存在や悪霊ピー・ターイ・タンクロムを想像させる。『クンチャーン、クン・ペーン』の物語は、男性には古典的作品と映っても、女性にとっては、妻の腹を裂いて自分の子供を取り出す男性の話である。このようなクマーン・トーンの持つ背景は、若い女性たちにとっては正統性の証というよりは、心理的に忌避したい悲惨な状況と映るのではないか。

タイの文化にはそぐわないと批判され、短期間で終息したルーク・テープのブームであるが、ルーク・テープが招福人形として大ブームになってから買い求めた人々や、それをビジネスチャンスと考えた人々の宣伝の加熱化の影で、ブーム当初から熱心に愛好していた人々の語りのジェンダー論的側面はこうして議論されることなく終わった。

前述のクマーン・トーンを祀る人々の間に聞かれる「リアン（世話をする）」という言葉は、子育てをする女性にとっては、特別なことではない。子供を育てるように、クマーン・トーンの世話をする。そうすれば、彼が愛情や恩恵を返してくれる。親子関係に期待されるものと一緒である。父子ではなく母子関係を模して育てるための「可愛らしい」呪物への欲求が高まった結果、誕生したのがルーク・テープであり、新しいクマーン・トーンであるとも考えられる。

きちんと祀らないと持ち主に厄災をもたらすとされるクマーン・トーンに対し、ルーク・テープは「注いだ愛情の大きさに応えるように福をもたらす福の神」であるが、世話をせず放置していてもただの人形に戻るだけである。人間の子供を育てるような感覚を味わうと共に、クマーン・トーン供養や実際の育児に伴う苦勞に悩まされることもない。「理想の子育て」という願いをかなえてくれるのだ。スピリチュアリズムのグローバル化／非宗教化と、呪物市場への女性の参入、という傾向の中で生まれた呪物がルーク・テープなのではないだろうか。

7. 結論

現代の米国社会では、宗教離れは顕著であるがスピリチュアリズム志向はむしろ深まっている、とする統計結果がある。また日本においては、2019年5月1日、元号が「平成」から「令和」に切り替わり、この日、日本国内のいくつかの神社には、「御朱印」を求める参拝客が殺到し、神社側が苦言を呈する状況が発生し

た。4月30日（「平成」最後の日付）と5月1日（「令和」初日）の両方の御朱印が並べられてインターネットのオークションに売り出され、高額で落札されるというケースが報道され、話題になったのは記憶に新しい。この他にも一部の神社仏閣の授与品や御守が所有者の願望を実現させるとして、ネットで高額で取引されていることもしばしば話題に上る。

こうした日本に生起する社会現象も、「宗教回帰」と考えるより、米国同様「宗教なき呪術」の浸透の現れと捉えることができる。ネットオークションで御札やお守りの類が高値で取引されることの背景には、信仰というより欲望の即時解決を求める動機があることが多い。同様にインターネットでは「〇〇にお参りすると問題は即解決します！」「〇〇はご利益抜群！」と謳う宣伝サイトに遭遇する。つまり、インターネットがもたらした情報革命が、こうした正体不明の呪術を拡散させる要因になっているのである。情報化社会ゆえにスピリチュアルな情報が拡散する、という皮肉な現実がそこに存在する。こうした「宗教のない呪術」は今や世界的な現象であり、ネットによる拡散により、世界中の呪物情報が入手できるようになったため、こうした呪術情報は宗教文化から切り離されて断片化され、国境を超え、願望を即時叶えたい人々の注目の対象となっている。

タイは上座部仏教を信仰する国民が多数派を占める国であるが、その仏教は土着の信仰や様々な民間信仰と結びつき、庶民の間ではタイ独特の「神仏習合」的宗教実践が見られる。その中でも、モー・ピーー、モー・タムと呼ばれる東北タイ地方の呪術師は有名であり、研究者の注目を集めてきた。しかし、仏教が民間信仰と結びついているのは、本論文で明らかにしてきたように、農村部だけの特徴ではない。都市部やバンコク首都圏においても、人々の信仰におけるシンクレティズムは根強く存在する。こうした信仰のあり方を、都市民自身が必ずしも意識的に捉えているとはいえず、なかば無意識に慣例的に実践されていることも多い。しかし、何らかの危機的な状況に直面した時、その指向は顕現化し、多くの人々を巻き込む大きな社会現象となる。

バンコク都内の土着信仰については、津村文彦がバンコク中心部の寺院境内に祀られている悪霊ナーン・ナーク（前述）の社が、宝くじ当選や兵役回避を願う人々の信仰を熱心に集めていることを紹介している（津村2002：25-43）。産業化の進展に伴い都市化や都市部への人口集中の進むタイ社会においては、むしろこ

うした首都圏の都市社会における人々のオカルティズム志向について研究する必要があるであろう。

ルーク・テープのブームが社会問題化した頃、そのオカルト的な側面に関心が集中し、精神分析やタイ社会分析も盛んに行われた。急激に拡大した社会現象だけに、各界からは批判的な意見が多く、仏教界からは、こうした人形に熱中する人は仏教の三宝を理解していない、ファッションとしての呪術の蔓延だ、こうした呪術を信じている人たちは近親者や隣人を信頼せず自分だけを頼りにしている、といった批判が寄せられ、一方、医者や精神科医の中には、タイ人の古代から変わらぬ呪術依存傾向を指摘する者や、現代人の精神の欠乏感に由来するのではという意見も見られた（Chaiwong 2016:161）。

前節で述べたように、筆者はこの現象はタイ特有の現象と言うより、まずグローバル化するスピリチュアリズムのタイ的な発現であったのではないかと考える。野津論文やタイのメディアが繰り返し報道している、中国人や台湾人がタイにやってきたクマーン・トーンやルーク・テープを買い求める行動も、こうしたグローバル化の一環と考えられる。

同時に、都市化や近代家族化、高学歴化と女性のライフコースの変化、少子高齢化、同性婚の増加にみられる時代の変化は、スピリチュアリズムに対する期待も変化させる。前節でも述べた通り、メディアによるセンセーショナルな報道と、政府や宗教者、専門家による批判的なコメントが相次いだが、ブーム当初の中心は女性たちやトランスジェンダーな人々であったことについての分析は見当たらない。ルーク・テープのブームの中で、なにかと比較として取り上げられたクマーン・トーンであるが、こうして考えると、そこに託された信仰者の願いには大きな違いがあることが分かる。父子関係を構築することにより、所有者の願いをかなえるクマーン・トーンと、母としての育児を（迫）体験することが目的化しているルーク・テープは、やはりそもそもの目的が異なるのではないか。

仏教とかわる呪物信仰が盛んなタイにおいて、アユタヤ時代以来の呪法によって製作されたというクマーン・トーンも高僧により「招福・吉祥」のクルアンランとして作り変えられた。女性の呪物市場への関心は、彼女たちが抱える問題と願望を叶える呪物の需要を高めるきっかけとなる。同時に、背後には彼女たちが抱える願望と欲求があるのではないか。我々はそこに着目する必要があるように

思われる。

注

- (1) 夫のマークが兵役に取られるが無事生還したことにちなむとされている。
- (2) タイでは仏像やそれに準じる呪物の売買が禁じられているため、ワトゥモンコンの取引においては「売買」ではなく「貸借」という言葉が用いられる。つまり希望者は、代金を支払って「永久的に借りる」という体裁をとる。
- (3) 2016年2月27日、ナコンパトム県サムガーム寺院にて寺の関係者にインタビュー。
- (4) 2016年2月27日、ナコンパトム県パイローム寺院にて寺のクマーン・トーン売店従業員にインタビュー。
- (5) superent02 "Tukatalukthep" singbucha trendmai????
(https://www.youtube.com/watch?v=kn4JDuoW_c) (2015年5月25日)
- (6) Inthonchai Whanichakul, "Tukkata Luk Thep" nawatkammai thang saiyasat' Post today.com記事, 2016年1月25日 (URL:<http://www.posttoday.com/analysis/report/412183>)
- (7) Suthanya Chantha and Oraphan Keawsith, 'jak kumanthong su tukkata luk thep nawattam khwamchua bonsithsuwanbukhkhon?' Matichon online記事, 2016年1月15日 (URL:http://www.matichon.co.th/news_detail.php?newsid=1452777186)
- (8) 'Um hae pai pluksek 'lukthep' naenwatbuakhwan' Thairath online, 2016年1月26日 (URL:<http://www.thairath.co.th/content/568040>)
- (9) 視聴したのは、2015年8月から2016年6月にかけて、Youtubeにアップロードされた、ルーク・テープを取り上げたニュース番組、ユーチューバーのチャンネル等約50本である。
- (10) AMRIN TVHD 'Raikan tankhontankit ton tukatalukthep sangpatihan ru gomgai?'
(<https://www.youtube.com/watch?v=sau1OdZIGYA&t=2207s>) (2015年5月26日)
- (11) Yung Channel 'Mayainsid ton poetbantukatalukthep EP. 1'
(<https://www.youtube.com/watch?v=i2hYsKnoYCU>) (2015年8月10日)
- (12) 再生回数の多いルーク・テープ破壊動画として、以下の2つを挙げておく。Kan Atthakorn (2016.2.7) 'Grilled supernatural doll' (<https://www.youtube.com/watch?v=uhbHz4HMPuU&t=347s>), Bie The Ska (2016.1.29) 'Withi liang lukthep' (<https://www.youtube.com/watch?v=bRL48o4GrkY>)

- (13) World Health Organization, 'Stillbirth rate Data by country' (<http://apps.who.int/gho/data/view.main.GSWCH06v>)
- (14) The World Bank, 'Mortality rate, infant (per 1,000 live births)' (<https://data.worldbank.org/indicator/SP.DYN.IMRT.IN>), 「タイー乳児死亡率」『knoema ワールドデータ』 (<https://jp.knoema.com/atlas/タイ/topics/人口統計/死亡/乳児死亡率>) (2019年10月19日閲覧)
- (15) The World bank 'Fertility rate, total (births per woman)' (<https://data.worldbank.org/indicator/sp.dyn.tfrt.in>) (2019年10月19日閲覧)
- (16) The World Bank, 'Population ages 65 and above (% of total population)' (<https://data.worldbank.org/indicator/sp.pop-65.up.to.zs>) (2019年10月22日閲覧)
- (17) Khaoprisna thalon 'Khaoprisna thalon wanthi 19-05-58 ton lukthep chuong thi 2' (<https://www.youtube.com/watch?v=EBOHfbAzzO8>) (2015年5月20日)
- (18) モー・タムとは民間においてピーーに関わる治療や除霊等を行う人々（モー・ピーー）の一種である。タイ東北地方特有のモー・ピーーであり、モー＝医者、タム＝法、ダルマの意味であり、その名称の通り出家経験がある者が多く、仏教との関係が深いとされる。
- (19) 米国における調査によると、2012年から2017年の5年間でアメリカ人の宗教離れが進み、一方でスピリチュアル志向が強まっている。(Michael Lipka and Claire Gecewicz, 'More Americans now say they're spiritual but not religious' (September 6, 2017) Pew Research Center. (<https://www.pewresearch.org/fact-tank/2017/09/06/more-americans-now-say-theyre-spiritual-but-not-religious/>))

参考文献

1. 日本語文献

- 綾部恒雄 (1971) 『タイ族 その社会と文化』 弘文堂。
- 佐々木宏幹 (1996) 『聖と呪力の人類学』 (講談社学術文庫) 講談社。
- 小松和彦監修(2013) 『日本怪異妖怪大辞典』 東京堂出版。
- 白川千尋 (2012) 「序章 言葉・行為・呪術」 白川千尋・川田牧人編、2012、『呪術の人類学』 人文書院所収、9-45。
- 白川千尋・川田牧人編 (2012) 『呪術の人類学』 人文書院。

橋本（関）泰子（2005）「東南アジアの「共働き社会」に学ぶタイ都市中間層家族における育児と仕事の両立」『論集』（四国学院大学）116、139-167。

橋本（関）泰子編（2012）『アジアにおける精霊信仰の近代的変容-ジェンダー・地域・エスニシティに及ぼす影響』（平成21-23年度 科学研究費補助金（基盤研究（B））研究成果報告書）。

関泰子（2014）「タイ南部の船霊信仰」『立命館国際研究』26（4）、143-165。

関泰子（2015）「現代ミャンマー社会における精霊信仰と「公式ナツ」をめぐる言説」『論集』（四国学院大学）148、1-30。

関泰子（2017a）「現代タイ社会における呪術-都市の「福の神」人形ブームを事例に-」『論集』（四国学院大学）150、1-24。

関泰子（2017b）「ミャンマーにおける精霊信仰-漁民の船霊信仰を中心に-」『論集』（四国学院大学）153、29-56。

津村文彦（2002）「ナーン・ナークの語るもの-タイ近代国家形成期の仏教と精霊信仰-」『アジア経済』XLIII-1、25-43。

日本タイ学会編（2009）『タイ事典』めこん。

野津幸治（2017）「タイにおけるクマントーン信仰について-開運のお守りになった胎児の霊-」『論集』151、5-26。

野津幸治（2018）「タイにおけるクマントーン信仰普及の背景と要因-信奉者の体験談からの考察-」橋本（関）泰子編『東アジアにおける宗教的シンクレティズムの社会学的研究-日本・中国・東南アジア』（平成27-29年度 科学研究費補助金（基盤研究（B））研究成果報告書）、71-85。

野津幸治（2019）「タイ語のお守り関連語彙の呼称と意味」『Clear Sky』17、13-16。

プラーヤー・アヌマーンラーチャトン（森幹男訳）（1987）『タイ民衆生活誌（1）-祭りと信仰-』勁草書房。

安井眞奈美（2014）『怪異と身体民俗学-異界から出産と子育てを問い直す』せりか書房。

2. 英語文献

Stoker Lindsey（2013）*Thai Amulets & Jewelry: A Guide to Buddhist Talismans, Spiritual Charms and Meditative Malas*, Apple Books.

3. タイ語文献

Krisana Phayakorn（2015）*Tukata lukthep*, Bangkok.

Kroklit Tanjaruphat (2016) *Khropkuruang...ruang kumanthong*, Bangkok.

Thotsaphon Jangphanichkun (2009) *Sudyod kumanthong*, Bangkok.

Rachakhunanich Kanlong (2011) *Kan susan ruang khwam saksit khong kumanthong nai sangkhom thai*, (M.A.Thesis), Chulalongkorn University.

Chaiwong Sanit (2016) *Prakotkan tukata lukthep*, Chulalongkorn University. (academia.edu よりpdf版にて2019年5月31日ダウンロード)

4. インターネット資料

4-1.新聞・雑誌記事

・ Inthonchai Whanichakul, “"Tukkata Luk Thep" nawatkammai thang saiyasat” Posttoday. com記事, 2016年1月25日 (URL:<http://www.posttoday.com/analysis/report/412183>) (リンク切れ)

・ Suthanya Chantha and Oraphan Keawsith, ‘Jak kumanthong su tukkata luk thep nawattam khwamchua bonsithsuwanbukhkhon’? matichon online 記事, 2016年1月15日。(URL:http://www.matichon.co.th/news_detail.php?newsid=1452777186) (リンク切れ)

・ ‘Um hae pai pluksek “lukthep” naenwatbuakhwan’ Thairat online, 2016年1月26日 (URL:<http://www.thairath.co.th/content/568040>) (2019年10月22日閲覧)

・ World Health Organization, ‘Stillbirth rate Data by country’ (<http://apps.who.int/gho/view.main.GSWCAH06v>) (2019年11月15日閲覧)

・ The World Bank, ‘Mortality rate, infant (per 1,000 live births)’ (<https://data.worldbank.org/indicator/sp.DYN.IMRT.IN>)

・ 「タイー乳児死亡率」『knoema ワールドデータ』(<https://jp.knoema.com/atlas/タイ/to pics/人口統計/死亡/乳児死亡率>) (2019年10月19日閲覧)

・ Michael Lipka and Claire Gecewicz, ‘More Americans now say they’re spiritual but not religious’ (September 6, 2017) Pew Research Center. (<https://www.pewresearch.org/fact-tank/2017/09/06/more-americans-now-say-theyre-spiritual-but-not-religious/>) (2019年10月2日閲覧)

・ The World Bank ‘Fertility rate, total (births per woman)’ (<https://data.worldbank.org/indicator/sp.dyn.tfrt.in>)

・ The World Bank, ‘Population ages 65 and above (% of total population)’

(<https://data.worldbank.org/indicator/sp.pop.65up.to.zs>)

4-2. 動画

(2019年10月19日～30日閲覧 全てタイ語番組。個人アカウントによるニュース番組アップロード分は掲載していない。()内はアップロード日。なお元々のアップロード者名、タイトル名、共に多くがタイ文字であるが、ここではアルファベット表記に直して記している。)

・ Khaoprisna thalon 'Khaoprisna thalon wanthi 19-05-58 ton lukthep chung thi 2'

(<https://www.youtube.com/watch?v=EBOHfbAzzO8>) (2015年5月20日)

・ BRIGHT TV 'Tukatalukthep trendmai...saiyasatthai:Reangchatchattem'

(<https://www.youtube.com/watch?v=m2x65NESVP8>) (2015年5月22日)

・ superent02 "'Tukatalukthep" singbucha trendmai????' (https://www.youtube.com/watch?v=kn4JDUMoW_c) (2015年5月25日)

・ AMRIN TVHD 'Raikan tankhontankit ton tukatalukthep sangpatihan ru gomgai?'

(<https://www.youtube.com/watch?v=sau1OdZIGYA&t=2207s>) (2015年5月26日)

・ Raikan khom chat luk 'Khom chat luk "Lukthep?"' (<https://www.youtube.com/watch?v=6nVaRcGyw7Y>) (2015年6月4日)

・ thaich2 'Tukatalukthep umlaeoruai (maisensoer) protchaiwijanyan naikanrapchom'

(<https://www.youtube.com/watch?v=nxiaRCP9eZA>) (2015年8月5日)

・ Yung Channel 'Mayainsid ton poetbantukatalukthepEP. 1'

(<https://www.youtube.com/watch?v=i2hYsKnoYCU>) (2015年8月10日)

・ Yung Channel 'Mayainsidthep "Krasae tukatabanlukthep" EP. 2'

(<https://www.youtube.com/watch?v=HaWzCNVjUvQ>) (2015年8月18日)

・ MVTV Thailand 'Raikan maothmaomans "Tukatalukthep...mano...ru ruangjing"

(<https://www.youtube.com/watch?v=CylstrjMDSE>) (2015年9月16日)

・ AMRIN TVHD 'Thubtokhao:Chaokhonkaenmigong! Saoyaiumtukatalukthepklongt hongram angruaiphraphi' (<https://www.youtube.com/watch?v=vxM9X1dmIBk>) (2015年10月18日)

・ GMM25Thailand 'Chae-Tukatalukthep lae naksadaeng chak daiaritutsi dasiris'

(<https://www.youtube.com/watch?v=vKqFTZ9S0A8>) (2016年1月20日)

・ ThaiCh8 'Manomak!!! "Lukthep" thungkhanmisutmisutbat'

(<https://www.youtube.com/watch?v=16R59bEBdCw>) (2016年1月21日)

- ・ ThaiCh8 “Lukthep” satha ru ngomngai’
(<https://www.youtube.com/watch?v=MNc8nEHFfTg>) (2016年1月21日)
- ・ N Store ‘Tukatalukthep’
(<https://www.youtube.com/watch?v=L2DRo5xBIfk>) (2016年1月23日)
- ・ ThairathTV ‘Nayokwangai? Tukatalukthep. 25-01-59’ (<https://www.youtube.com/watch?v=lsgwz8aKNx0>) (2016年1月25日)
- ・ Thai Ch8 ‘Khamtobkhao: Puetmummong "lukthep"satha ru gomngai??’
(<https://www.youtube.com/watch?v=-8YeXNEfxSE>) (2016年1月26日)
- ・ CiNNtv3 ‘Maetaothukhuaylaimun chuaphrolianglukthepkaengao’ (<https://www.youtube.com/watch?v=XWdDDOximlU>) (2016年1月26日)
- ・ AMARIN TVHD ‘Raikantangkhontangkhith ton tukatalukthep phuthakhun ru saiysat ton 2’ (<https://www.youtube.com/watch?v=x1eSx8CwJq4>) (2016年1月26日)
- ・ ThaiCh8 ‘Lukthep krasathiraengsud’
(https://www.youtube.com/watch?v=mp2_70QwBeE) (2016年1月26日)
- ・ Ruanglaochaoni bieshi-thero “Phraphayom” tuansatikhonthailonglaikurasatukatalukthep (26m.kh.59)’ (<https://www.youtube.com/watch?v=lQaKGdx5t2o>) (2016年1月26日)
- ・ ThairathTV ‘Rotbasaoduai jamnaituanang "Tukatalukthep" 25-01-59 khaosaikhai’
(<https://www.youtube.com/watch?v=P914GHrsKhU>) (2016年1月26日)
- ・ ThaiPBS ‘Mua "Tukatalukthep" klaipenkurasaedang phromikantalad khaomakiaokhong (26 m.kh.59)’
(<https://www.youtube.com/watch?v=TEINivd4ZGk>) (2016年1月26日)
- ・ AMARIN TVHD ‘Thubtokhao :Kromsukkhaphapjitpoeilianglukthep maithoewaphitpokatitangjit khaethi phoengtangjai 25/01/59’
(<https://www.youtube.com/watch?v=0UVtqJAM6wo>) (2016年1月26日)
- ・ AMARIN TVHD ‘Thubtokhao : Raikanphiset:Tukatalukthep saiayasatsangmunkha 26/01/59’ (<https://www.youtube.com/watch?v=pfpifONwsTM>) (2016年1月27日)
- ・ ToyJoyKandygirl (ユーチューバー) “Tukatalukthep” satha khwamchop ru faeshan?’ (<https://www.youtube.com/watch?v=YXyN-YFTNd8>) (2016年1月27日)
- ・ Raikan khom chat luk ‘Khomchatluk - lukthepfiwoer?’ (<https://www.youtube.co>

m/watch?v=PK0av27XLj4) (2016年1月27日)

- AMARIN TVHD 'Raikantangkhontangkhit ton tukatalukthep plaengsathapenngue ntra' (<https://www.youtube.com/watch?v=BSzmH3Jb1NQ>) (2016年1月27日)

- Ruanglaochaoni bieshi-thero 'Ruanglaochaoni Phuluamsaihaeumtukatalukthep lon gakkharanaenwatbuakhwan "Phraphayom" tuansatyangomngai' (<https://www.youtube.com/watch?v=1hLHkCxDCko>) (2016年1月27日)

- PPTV HD 'Munmongkrasae "Tukatalukthep"' (<https://www.youtube.com/watch?v=m3UHoGIraE>) (2016年1月27日)

- Amarin TVHD 'Thubtokhao:Jaoawatwatbuakhwan rapkhonhaeplukseklukthepphiap josophrathampithikhadwinairumai 26/01/59' (<https://www.youtube.com/watch?v=pjvt55vtXig>) (2016年1月27日)

- NineEntertain Official "'om" liangtukatalukthepchuachuai hai chiwitdikhun' (<http://www.youtube.com/watch?v=PblmeYGIgBU>) (2016年1月28日)

- AMARIN TVHD 'Thubtokhao :kanbinphonlaruan purakat tukatalukthep pen sam phara - Phra chiplukseklukthepmuanjumrot 27/01/59' (<https://www.youtube.com/watch?v=7wxTvzZdD-o>) (2016年1月28日)

- GMM25Thailand 'Chae-Mo Pla muprapsamphawesi chakhonliangtukatalukthep wan thi27 mokkarakhom 2559' (<https://www.youtube.com/watch?v=1EHBOSZN0SA>) (2016年1月28日)

- Bie The Ska (ユーチューバー) 'Withilianglukthep' (<https://www.youtube.com/watch?v=bRL48o4GrkY>) (2016年1月29日)

- Ruanglaochaoni bieshi-thero 'Ruanglaochaoni Huha maekhamuangpurajin liang tukata "lukthat" tuadammonmaem khukhaeng "lukthep"' (<https://www.youtube.com/watch?v=bLe7Ryxc2bk>) (2016年1月29日)

- AMRIN TVHD 'Thubtokhao:khonlianglukthepseng watbuakhuwankhunpailoakjoam 29/01/59' (<https://www.youtube.com/watch?v=8M2ChP3OMqY>) (2016年1月30日)

- Thairath 'Phisanulok liang "luktheo" khakhaidikhun 30-01-59 Thairatniwsshow ThairatsTV' (<https://www.youtube.com/watch?v=mBAWr-20uJA>) (2016年1月30日)

- ThaiCh8 'Aoek Show "Mo Maek" Phuhaikamnoet "Lukthep" jondangthuabanthua

- muang' (<https://www.youtube.com/watch?v=-Tc-edGdsT4>) (2016年2月1日)
- ・ThaiCh8 Khaodangnangkhuai "khonlianglukthep - Kumangthongsai ba eo... baruplao" (3) (<https://www.youtube.com/watch?v=IQghLEQhK5k>) (2016年2月1日)
 - ・TNAMCOT 'Tukatalukthepkhalong loekliangwangthingwat' (<https://www.youtube.com/watch?v=IaZAl09ubew>) (2016年2月2日)
 - ・AMARIN TVHD 'Thubtokhao : prakotkanhaethingtukatalukthep - luangphowatsa wangeromtuan buchataephodii 02/02/59' (<https://www.youtube.com/watch?v=zFNR Fqr4678>) (2016年2月3日)
 - ・Kan Atthakorn (クーチューバー) 'Lukthep yang #thamaraidi Grilled supernatural doll' (<https://www.youtube.com/watch?v=uHbHz4HMpuU&t=347s>) (2016年2月7日)
 - ・ThaiCh8 'Aoek Show Poetjaikhonlianglukthep' (<https://www.youtube.com/watch?v=QZBQrlo7U2k>) (2016年2月8日)
 - ・Smart Biz 'Setthakittitjo:Lukthep... thiphoengthangjai yammaiman jainaisethakit' (<https://www.youtube.com/watch?v=37iTMyWZskQ>) (2016年2月9日)
 - ・RAMA CHANNEL 'Raikanphopmorama Rama Update khonliangtukatalukthep maiphitpokathangjit 05k.ph.59 (1/5)' (<https://www.youtube.com/watch?v=5VzbtSqPMWk>) (2016年2月11日)
 - ・ThaiPBS 'Poetpom:Lukthep (29 k.pho.59)' (<https://www.youtube.com/watch?v=JswG357TG7o>) (2016年2月29日)
 - ・ThaiCh8 'Klumkhonraktukata "lukthep" khochijaenglangmikurasaedrama' (<https://www.youtube.com/watch?v=Y0-117RnL-g>) (2016年6月8日)
 - ・GMM25Thailand 'Chae - Me Phatrawarin Mo Maek Khanthep & King Banlukthep wiwaasankan wanthi9 mithunayon 2559' (2016年06月10日)
 - ・Tam Story 'Poettua tukatabebiluksaokhonmai tuahommuandekjinjinmak maepupe choetaem' (<https://www.youtube.com/watch?v=KFYamULyCX8>) (2017年11月29日)